

# 入門ミクロ経済学 I

科目ナンバリング ECT-101  
選択必修 2単位

落合 宏

## 1. 授業の概要(ねらい)

私たちが生活を営んでいる現代の経済では財やサービスを取引する「市場」が大きな役割を果たしています。店で買い物したり、企業が商品を販売したり、アルバイトをして給料を得たりと、市場を通じた取引は現代社会において日々の生活そのものといっても過言ではありません。しかし、そのように人々や企業がバラバラに営んでいる市場取引の結果、経済全体ではどのような状態(混乱に満ちた社会になるのか、あるいは逆に調和のとれた社会になるのか等)といった点について深く考えることはあまりなかったかと思われます。本講義では、以上のような問題意識のもと、ミクロ経済学を通して、基本的な市場の機能や特徴を学んでいくことを目的としています。

また、ミクロ経済学の学習を通じて、私たちを取り巻く経済・社会について理論的かつ体系的に考え直すことは、現代の経済・社会を深く理解する上でも、またみなさんが将来就職してよい社会人生活を送る上でも大きな知的財産をもたらしてくれるでしょう。

## 2. 授業の到達目標

- ①市場の基本的な機能と特徴を、「なぜそうなるのか」という根拠も含めて十分に理解し、説明することができます。(知識・理解)
- ②メディア等で触れられる経済問題を深く分析して、適正に判断することができます。(汎用的技能)
- ③消費、貯蓄、労働等の日常の行動を経済学的に分析し、自身の適切な行動に役立てることができます。(態度・志向性)

## 3. 成績評価の方法および基準

- ・小テスト (到達目標①、②、③):30%
- ・課題 (到達目標①、②、③):20%(4回実施、各5%)
- ・期末テスト(到達目標①、②、③):50%

## 4. 教科書・参考文献

教科書

特に指定しません。

参考文献

グレゴリー・マンキュー 『経済学I ミクロ編』(第4版) 東洋経済新報社 2019年

神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014年

## 5. 準備学習の内容

予習は各回の授業内容を参考に参考文献で該当箇所を読み、予め疑問点を整理しておくことが望ましいです。復習は授業中に出题された例題、課題、小テストを通して理解が浅いと判断した部分を重点的に学習すると効率的です。

## 6. その他履修上の注意事項

- ・多くの経済学の書籍が販売されていますが、深く内容を理解するには、いろいろな基本書を乱読するのではなく、一冊の本をゆっくり丁寧に繰り返し読んでいくことが大切です。乱読よりも味読を心がけてください。
- ・経済学は数学や図を使用することが多いです。計算問題を解く際はもちろんのこと、授業で使用する資料や参考文献を読む際にも実際に自分で紙に計算を書き、図を描き、論旨を確かめながら読み進めてください。
- ・現実経済に対する深い問題意識があつて初めて経済理論の学習が意味を持てます。したがって、日ごろから新聞を読むなどして時事問題には関心に向けておいてください。

## 7. 授業内容

- |        |                                          |
|--------|------------------------------------------|
| 【第1回】  | 講義ガイダンス                                  |
| 【第2回】  | 本講義の理解に必要な数学:微分                          |
| 【第3回】  | 本講義の理解に必要な数学:微分の応用、最大化問題                 |
| 【第4回】  | 消費者行動の理論:消費者の最適選択                        |
| 【第5回】  | 消費者行動の理論:所得変化と価格変化                       |
| 【第6回】  | 消費者行動の理論:賃金が労働供給に及ぼす影響、利子率が家計の貯蓄率に及ぼす影響等 |
| 【第7回】  | 動画視聴                                     |
| 【第8回】  | 企業行動の理論:生産関数と利潤最大化                       |
| 【第9回】  | 企業行動の理論:さまざまな費用の概念、費用と供給曲線               |
| 【第10回】 | 企業行動の理論:競争市場における企業                       |
| 【第11回】 | 小テスト                                     |
| 【第12回】 | 部分均衡と余剰分析:需要曲線と供給曲線の相互作用                 |
| 【第13回】 | 部分均衡と余剰分析:消費者余剰と生産者余剰                    |
| 【第14回】 | 部分均衡と余剰分析:国際貿易                           |
| 【第15回】 | (オンライン)小テストの解答と解説                        |